

# 5th Anniversary TOKAI ILLUMINATION 2019



今年で5回目を迎える、東海村商工会青年部主催の駅前イルミネーション。例年よりも点灯期間を1か月早めて行います。今回新たに作成したオブジェは、村内の小学5年生に絵や文字を書いてもらったペットボトルを使って組み上げた、ペットボトルツリーです。昨年よりさらにバージョンアップしたイルミネーションを、ぜひご覧ください。

点灯式では、東海村少年少女合唱団による合唱が行われます。美しい歌声とイルミネーションをお楽しみください。

期間▼11月2日(土)から令和2年1月18日(土)まで

時間▼午後5時～午前0時

場所▼駅前第2公園(JR東海駅東口すぐそば)

その他▼11月2日(土)午後4時30分から、点灯式を行います。

問い合わせ▼東海村商工会青年部(☎282-3238 🌐http://tokai-seinenbu.com/)



▲昨年度はハート型のオブジェでした。今年のオブジェも、お楽しみに!

ふるさと歴訪  
〜歴史を再発見〜

## 小さな村の大きな宝物

船場の古老から、船場前組共同墓地に船場校で教師をしていた女性の墓があることを聞きました。早速行ってみると、墓地の奥まった場所に無念仏の墓碑群を見つけました。その中に一際立派な墓碑があり、次のようなことが刻まれていました。

先生の名は関内志都といい、水戸藩士小川丑之介の娘である。父から厳しくかつ愛情をもって育てられた。結婚し一男を設け、大洗の大貫校(現在の大貫小学校)から船場校に移ってきた。先生は性格が穏やかで、学生を善く慈しみ、温かく包み込むように接していた。学(計算や読み書き)や裁縫などを熱心に教えた。先生はとても思いやりがあつたため評判となり、近くや遠くから子どもたち

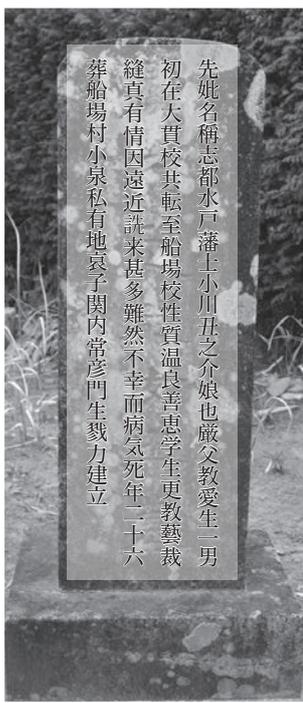
東海村古文書を読む会

藤本 啓二

が船場校へやってきた。しかし、先生は病気を患い明治13年に26歳の若さでこの世を去った。子どもたちは先生の死を深く悼み、自分たちのために愛情深く教え導いてくれたことに感謝し、先生のために何をしたらよいかと知恵を出し合い考えた。その結果、先生の子息や教え子39人が心を一つにして、この墓碑を建立した。”

墓碑を読み解くことで、「二十四の瞳(壺井栄著)を彷彿させるドラマが、船場校という小さな村で展開されていたことが分かりました。また、教育の原点(子どもと先生の心の触れ合い)は何かということ、鮮明に訴えているようにも思えます。

【船場校で教師をしていた先生への思いが刻まれている墓碑(船場前組共同墓地)】※写真に、墓碑の側面に刻まれている文字を重ねています。



この話を後世に伝えていく必要性を感じ、当時の船場校について詳しく調べようとしたが、残念ながら古文書が散逸しており、調査が暗礁に乗り上げてしまいました。現在建設中の「(仮)歴史と未来の交流館」では、村内に眠っている古文書をはじめ、古記録等の発掘や解説、公開、保存に尽力されるよう願ってやみません。